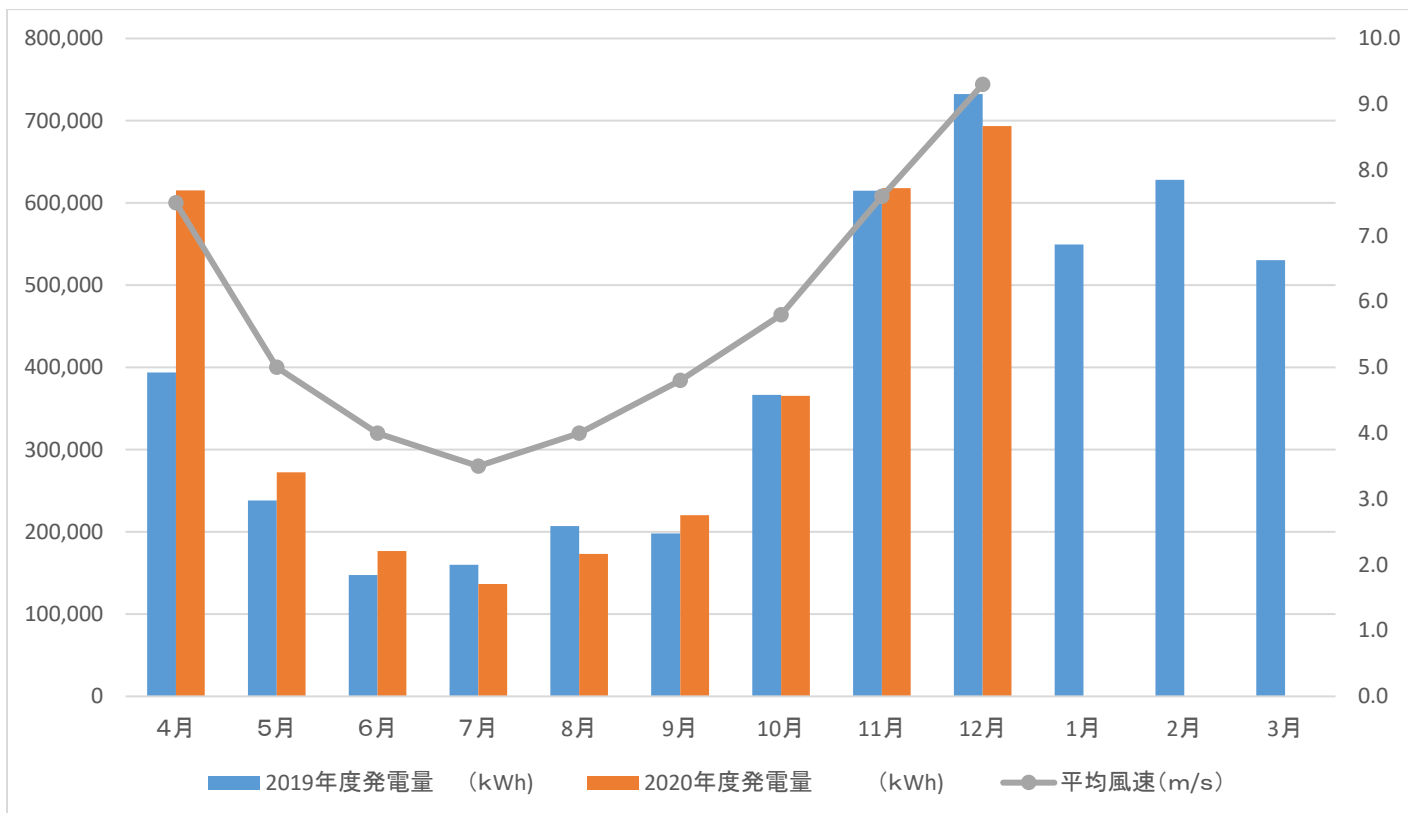


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 2020年度発電実績



12月度運転状況について

- 平均風速は前年より0.6m/s 高い実績で、9.3m/s と強く、発電量も多くなりました。設備利用率は46.8%と高くなっています。
- 暴風雪の影響による突風を受けたことによるエラーが度々発生したため、発電量は前年比94.7%となりました。

センサーエラーが発生すると、遠隔操作で対応する場合と、現地に行って安全を確認した後に復旧対応する場合があります。暴風雪の多い冬季は、エラー発生も多く、保守管理を委託している株市民風力発電が大雪の中を迅速に対応してくださっています。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	615,129	7.5	99.1
5月	272,629	5.0	94.0
6月	176,764	4.0	99.0
7月	136,722	3.5	99.6
8月	173,246	4.0	91.4
9月	220,401	4.8	92.5
10月	365,485	5.8	98.7
11月	618,023	7.6	99.8
12月	693,277	9.3	94.9
1月			
2月			
3月			



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。日頃は一般社団法人グリーンファンド秋田（夢風）を応援・ご指導いただき誠にありがとうございます。昨年も「夢風」は順調に稼働しました。生活クラブ風車「夢風」は今年で稼働 10 年目を迎えます。

1. 福島県双葉町で思ったこと

元旦の初日の出を見に太平洋側の福島の海に大晦日の除夜の鐘が鳴り終わる頃に車で向かうことが例年のこととなっている。まだ夜が明けぬ深夜は道路が大変空いていて気持ち良く運転でき早い。今年も北茨城を過ぎ、福島県いわき市の手前の海岸で太平洋から昇る素晴らしい初日の出を見ることができた。北茨城から福島の太平洋側はなだらかな海岸線が続き海の向こうを遮るものがなく遥か沖の太平洋の水平線が段々と赤くなり太陽が昇ってくる。

初日の出を見た後は例年、10 年前に大事故を起こした福島第 1 原発の周辺を視察して変化を確認して帰ってくる。国道 6 号線を北に上っていくと広野町、楡葉町を過ぎると周辺に簡易ホテルが多くなり、富岡町のあたりから周辺に除染した土を入れたフレコンパックがチラほらし、大熊町、双葉町に入ると道路から左右に行く道には帰宅困難区域の看板とバリケードがあり車が侵入できなくなっている。昨年の 3 月に常磐線が全線開通したことから今年は常磐線の駅には行くことができた。福島第 1 原発の最寄駅である双葉駅は立て直されピカピカでした。



ピカピカの JR 双葉駅



帰宅困難地域の中学校



3.11 のまま放置されている家が並ぶ商店



倒壊したままのお寺

その駅から 1 分歩いた道路の両側は 3.11 の大地震で倒壊し、原発事故で慌てて非難した時のままの家々がそのまま。このあたりは帰宅困難区域が解除されているらしく私も車で入ることができた。しかし 5 分ほどところはバリケードで入れない。放射線量はどちらも同じくらい高い。何が違うのかわからないのですが、どちらにしてもここに戻ってきている人は誰もいないようで、新しいこの駅は誰が利用するのだろう。

10 年前の 2011 年 3 月 11 日に発生した福島第一原子力発電所事故は大変な事故であり、廃炉処理は遅々として進まず、更に放射性廃棄物の貯蔵もいっぱいになってきている。この周辺の復興は何もす

すんでないし何も解決していない。政府は廃棄物を海に捨てるという馬鹿なことを言っており、そんなことしたら福島、常磐の海が汚染されるのは明らかだ。オリンピックで完全復興というアナウンスをするのだろうけど騙されてはいけない。事実を見てほしい。放射能を伴う原子力発電所は人間がコントロールできない、廃棄物の処理もできない。人間が扱ってはいけないものなのです。昨年 11 月の臨時国会で菅首相は成長戦略の柱に経済と環境の好循環を掲げてグリーン社会の実現に最大限注力し、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。持続可能な地球にしていくために気候危機の対策は待ったなしで大事な宣言ではある。しかし、その鍵と

して安全最優先の原子力政策をすすめることで安定的なエネルギー供給を確立することも言っている。これは本末転倒だ。福島原発事故の処理も未だにできていないまま、原発の再稼働や新設により 2050 年までに温室効果ガス排出ゼロを達成するなどということは絶対にダメだ。省エネと再生可能エネルギーですすめる政策に転換して実現すべきだ。3.11 で何が起ころい何も解決されていないことを私たちはよく見ておく必要がある。

2. 生命を紡ぐ、生活を基盤とした人と人のつながりを地域でどう広げていくかが重要な時代

人類はいま「気候危機」と「コロナ危機」の2つの危機に直面しています。大きな社会の転換点に私たちは今立っている。どのような方向に向かうのか大きな岐路だ。危機は今後をどう考えていくのか、その課題や材料を炙りだしているとも言えます。

気候危機は近年の大雨や台風による激甚な風水害を引き起こし、また異常気象は世界的に広がっていて被害を及ぼしている。その影響は食料生産や感染症の発生拡大、生物多様性の破壊にもつながりつつあると考える。その原因は人類が生み出している温室効果ガス（二酸化炭素）です。世界の平均気温は産業革命以前から上昇を 1.5℃以下に抑えることを目標にしてきたが 2020 年度はこれまで最高の 1.2℃に達する見込みです。2030 年までのこの 10 年が地球の未来を変える最後の 10 年と言われています。温室効果ガスの排出を削減し気温上昇を現在より抑えないと後戻りできなくなります。未来への責任が私たちにはあります。

コロナ禍は、行き過ぎたグローバル資本主義が気候変動やパンデミックを引き起こしているという根源的な問題を可視化しました。グローバル化が支える経済ではなく、ローカルを中心とした人のつながりによるモノとコトが循環する地域コミュニティー経済の発展への実践をすすめていくことが本質的な問題解決の道筋です。社会転換を本気ですすめることです。

生活クラブは安全なモノを販売することを目的にしている組織ではありません。人々が「自己決定・自己実現」を基本とした「生活用具」であるアソシエーションを地域にたくさん生み出し、人間が主人公の地域社会をつくることにあります。改めて、人の組織である生活クラブという「生活用具」を地域の組合員が使って生活を基盤とした自治領域を地域で広げていくことにチャレンジしていくことが重要です。足もとにある地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の地域社会づくりへ転換していくことが重要なテーマだと思います。再生可能エネルギーはそのための用具の一つです。危機をより良い方向の世界に転換していくスタートにしましょう。

3. 10 年目を迎える生活クラブ風車「夢風」

生活クラブ風車「夢風」は 2010 年からおおぜいの組合員で建設にむけて議論し 3.11 の年の生活クラブ首都圏 4 単協総代会で決定し建設を準備し 2012 年 3 月に稼働しました。今年で 10 年目を迎えます。建設の目的は風車を建設して終わりではなく脱原発・再生可能エネルギーによる地域社会づくりをすすめていくためのスタートだと位置付けました。生協が建設した日本で初めての風車であり、その後の生活クラブグループによる再エネ発電所の建設やエネルギー政策の先駆けとなりました。建設地である秋田県にかほ市との「地域間連携による持続可能な自然エネルギー社会に向けた共同宣言」にもとづき、地元の人たちとの交流を始めとし様々の実践をすすめています。地域に資する風車としての実態と広域的なエネルギー自給をはかっている、言わば「ローカル SDG s」の先駆けの実践モデルでもあり海外の研究者にも紹介されています。

活動の基本は風車を縁とした人のつながりです。「夢風」が 10 年間、順調に稼働できたのも、地元の方たちの応援、にかほ市役所の方たち、夢風ブランドという消費材を生産している地元の生産者の方たち、風車を丁寧にメンテナンスしている人たち、そして毎年現地を訪れて視察・交流している組合員、ワーカーズ・コレクティブ、職員たちです。そしてそれをつないでいる事務局です。紡ぎ合う「人」たちです。

そして、今、「夢風」につづいて、にかほ市に新しい風車（生活クラブにかほ院内風力発電）の建設の準備がすすんでいます。地域に新しい風を吹かせ、危機克服にむけた人の関係性による人と自然を中心とした新しい取り組みを創造していきたいと思えます。エネルギーを自治し、エネルギーでつながる地域づくりの飛躍の年にしていきたいです。

本年もご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

冬こそ賢い省エネ

1/10、各電力会社等より電力需給逼迫のためとして家庭での節電が呼びかけられました。

東京電力は「昨年12月下旬以降、全国的に厳しい寒さが続いており、例年に比べ、電力需要が大幅に増加しております。1月8日には、西日本を中心に全国7エリアで最大需要が10年に1度程度と想定される規模を上回りました。一方、供給面では、全国的な悪天候により太陽光等の発電量が低下する日も少なくありません。（中略）天候不順や厳しい寒さは今後も続くことが予想され、全国的に太陽光発電からの発電量も多くは見込めない状況です。また、火力発電の発電量の増加にともなう発電用燃料の在庫が少なくなるリスクが高まっている状況です。特に3連休明けの12日は全国的に悪天候が見

込まれており、電力需給がさらに悪化する可能性があります。（中略）寒波の中での暖房等のご使用はこれまで通り継続いただきながら、日常生活に支障のない範囲で、照明やその他電気機器のご使用を控えるなど電気の効率的な使用にご協力いただきますようお願いいたします」と、協力を呼び掛けました。

しかし、節電を呼びかけるのなら、家庭よりも、製造業（36%）や業務（34%）部門のほうが先で効率も高くなります。順番が逆ではないでしょうか。

もちろん、家庭でも無駄な電気は使わないことは大事です。照明やテレビは、使っていないときにはこまめに消す。エアコン使用時は、サーキュレーターや扇風機を併用して空気を循環させると部屋全体が暖かくなり、足元から暖まります。また、窓に断熱フィルムを張るなど断熱をすると暖房効果はグンと上がります。浴室や北側の寝室が寒いと感じたら、是非、窓の断熱に取り組んでみてください。

家で過ごす時間が長くなっている今、賢く省エネして快適に過ごしましょう。

+ 日本の部門別消費電力量 (2019年度)



(データソース) 資源エネルギー庁: 総合エネルギー統計, 2019年度簡易表 (2020)
https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/total_energy/results.html

安田陽 (京都大学)
CC-BY 4.0
2021年1月12日



コラム 芹田自治会館

昨年12月中旬から寒波が襲い、日本海側では大雪となりました。年明けの1月7日にも暴風雪となったこの日、生活クラブ風車「夢風」の建つ秋田県にかほ市芹田でも、夕方から台風より強い風が吹き荒れました。竹花自治会長からは「海沿いで風が強いので地域で被害が出てないか見回りをしてきたところだ。住民の方がいつでも避難してこられるように、自治会館を開けて電気をつけてきた。」との電話を頂きました。

この自治会館は、10kWの太陽光発電がついており、暖房は電気でレンガに熱をためる蓄熱暖房で朝からいつでも暖かく保たれています。もちろん窓は真空ペアガラスです。年間の太陽光の売電収入は光熱費を上回ります。以前の自治会館では暖房は石油ストーブで、行ってから着けると帰るころようやく暖まるという寒い場所でした。「寒いところには誰も来ない。地域の人が気軽に集えるコミュニティーの場所をつくりたいとの思いでこの自治会館を建てた」と、荒川前会長は話されます。

自治会館には、カラオケや調理室もあり、地域の方がいつでも安心して集える居心地の良い場所になっています。また、生活クラブの学習会等でもいつも使用させていただいていて、組合員の方からは地域にもこんな場所が欲しいと羨ましがられています。



2019年組合員リーダーツアーで芹田自治会と交流の様子。後ろの建物が自治会館。(芹田自治会は生活クラブ風車・夢風の地主さんです。)